

〔決定版〕

わかる!使える!
会計の基本

金児 昭

Akira Kaneko

Accounting

PHP

〈著者略歴〉

金 児 昭（かねこ あきら）

経済・金融・経営評論家、作家、信越化学工業顧問、日本CFO（最高「経理・財務」責任者）協会最高顧問。

1952年、東京学芸大学付属大泉小・中学校卒業。

55年、東京都立大泉高等学校卒業。

61年、東京大学農学部農業経済学科卒業。信越化学工業入社。以来38年間、「経理・財務」部門の実務一筋。

92～99年、常務取締役（経理・財務、法務、資材関係担当）。

94～97年、公認会計士試験（筆記・口述）試験委員。

98～2000年、金融監督庁（現金融庁）顧問（専門分野「企業会計」）。

96年～、社交ダンス教師有資格者

著書に『「利益力世界」をつくったM&A』『ビジネス・ゼミナール会社「経理・財務」入門』『「経理・財務」〈上級〉』（以上、日本経済新聞出版社）、『これでわかった！ バランス・シート』『「経理・財務」これでわかった！』（以上、PHP研究所）、『私がほしかったダンス用語集』『Mr.金川千尋 世界最強の経営』（以上、中経出版）、『自由と自己規律』『日本型「経理・財務」事典』（以上、税務経理協会）、『お父さんの社交ダンス』（モダン出版）などがある。本書は121冊目の著作。

〔決定版〕わかる！使える！会計の基本

2011年1月7日 第1版第1刷発行

著 者 金 児 昭
発 行 者 安 藤 卓
発 行 所 株式会社 P H P 研 究 所

東京本部 〒102-8331 千代田区一番町21

ビジネス出版部 ☎03-3239-6257（編集）

普及一部 ☎03-3239-6233（販売）

京都本部 〒601-8411 京都市南区西九条北ノ内町11

PHP INTERFACE <http://www.php.co.jp/>

制作協力 株式会社PHPエディターズグループ
組 版
印 刷 所 共 同 印 刷 株 式 会 社
製 本 所

© Akira Kaneko 2011 Printed in Japan

落丁・乱丁本の場合は弊社制作管理部（☎03-3239-6226）へご連絡下さい。送料弊社負担にてお取り替えいたします。

ISBN978-4-569-79330-6

〔決定版〕

わかる! 使える! 会計の基本

州大学図書
蔵書章

金児 昭

Akira Kaneko

Accounting

はじめに

なぜ会計(会社の中での経理・財務)を勉強してほしいのか、まず知ってください

「社会人であれば、会社の数字くらい読めなければならぬ」といろいろなところでいわれています。「決算書」を読むための本というものも数多く出版されています。

私はこれを「世の中の不安感」というキーワードで捉えています。いろいろなことが不安定な時代に、経営現場の数字が読めれば客観的に会社を判断できる、と考えている方も多いのではないのでしょうか。

米国で発生したサブプライム問題やリーマ

ン・ショックでは、世界中が大きな影響を受けました。これらを見ていても「会計を知らない」と、会社がつぶれてしまう」といっても過言ではない時代になっていると感じます。

本当に知ってほしい知識だけを、
わかりやすく解説しました

今、世の中に出回っている会計の本には、かなり難しいものが多いように感じます。私は信越化学工業という会社で三十八年間、経理・財務一筋で仕事をしてきました。そんな私でさえ難しいと感じる本もあります。

ですから、本書では、本当に大事なことをだけをしつかりと取り出して、極力やさしく解説しました。

例えば、決算書については「誰のために決算書は必要なのか?／何のために決算書は必要なのか?／決算書の数字とは何を表しているのか?」といった本質をつかむことを一番に考えて解説しています。細かい説明以上に、それが社員に、会社、そして日本経済にもたらす影響と意義について感じとってもらいたいと思っております。

しかし、だからといって説明不足であるとは思っていません。本当に必要な知識だけをお伝えできたと自負しています。

「人間を幸せにする」会計の本です

また、私がこの本で皆さんに強くお伝えし

たいと考えている「経営会計(管理会計)」についても、折に触れて説明しました。これは、「人間を幸せにするための会計」であり、「制度会計(財務会計)」の大切さを上回る重要なことです。

最後に、経理・財務パーソンが日々どんなことを思い、どんな仕事をしているのかについても、私の経験からお話しました。

この本が、会計の基本を理解する上で、皆さんの助けとなることを、心から願っております。

二〇一〇年十一月

金児昭
かねこ あきら

〔決定版〕わかる！使える！会計の基本

目次

はじめに

第1講

なぜ会計を勉強しなければならないのか？

みんな決算書を読みたがるけれど…… 14

決算書とは、つまり何ですか？ 16

世の中、すべては会計だ 19

では、そもそも会計とは？ 21

税金を払わない会社は、どうでしょう？ 25

第2講

経営会計と制度会計

株価が上がれば、企業価値が上がるのか？ 28

やはり大事なものは経営会計 31

「管理」という言葉は使うべきではない 33

第3講

決算書を読む前に、知っておいてもらいたいこと

決算書を読むに当たっての心構え 40

決算書は誰のためのもの？ 43

決算書に関する法律の話 48

ゴーイングコンサーンとは「継続企業」 50

経営の不安点を開示しなければならぬ 52

決算書の数字はどう見るべきか？ 57

ネット（純額）で考えるとは？ 60

残受払残表という考え方 62

第4講

損益計算書の簡単な読み方

損益計算書とは「会社の成績表」である 68

インカム・ステイトメントとは？ 70

損益計算書のスタートは「売上」 72

お豆腐屋さんの損益計算書を作ってみよう 74

実際の損益計算書を使って、もう少し詳しく見てみよう 78

税効果会計とは？ 82

第5講

一番難しいけど一番重要？ 貸借対照表の基本

貸借対照表は期末の「財産を示す表」である 88

もう少し細かい、貸借対照表の読み方 90

知っているようで知らない？ 資産とは 92

長期と短期はどう違うの？ 94

負債とは一言で、「他人への義務」 96

「資本」とは「形のないもの」 98

第6講

キャッシュフロー計算書を理解するコツ

残受払残表こそがキャッシュフロー計算書の本質 106

金児式「さかのぼり3段式キャッシュフロー計算書」で見てみよう

第7講

「決算概要」からその会社を分析してみよう

会社の仕事を三つに分けると？ 113

さらに細かく見てみると「足を踏んばる」ことになる 116

損益計算書とキャッシュフロー計算書の大きな違い 120

キャッシュフロー計算書は、作っていない会社のほうが多い？ 123

実際の読み解き方は少し複雑 125

まずは営業キャッシュフローを見てみよう 131

次は投資キャッシュフロー 133

最後に、財務キャッシュフロー 135

決算短信とは何か？ 144

自己株式の買い取りとは？ 151

配当の状況について 154

配当をやめるのは、苦渋の決断 157

配当性向が高すぎるのは、むしろ業績が悪いということ 159

第8講

連結決算が当たり前

バランスシートが示す財政状態からわかること
161
決算書から、「知的資産」を測定する方法がある
165
業績予想など、日本でしかしていない
168

アメリカでは、はるか昔から連結決算だった
172

大リーグ「テキサス・レンジャーズ」が関連会社!?
176

株主は、連結決算書しか見ていない
179

連結決算は基本的には「足し算」
182

連結決算書がわかれば、年次報告書が読める
186

初めて見た「連結決算書」「税効果会計」に驚き!
189

百年も遅れて、やっと日本でも連結決算の時代に
192

連結決算の意義は、粉飾防止だけではない
195

第9講

自己資本の増強問題について知っておこう

税効果会計とは何か？

200

自己資本の不足には注意が必要

203

「自己株式取得の自由化」とは何か？

206

会社法がほとんど会計へ近づいた！

210

第10講

「会計」に大事なことは？

ちよつと頑固な「誠実さ」

214

他と比較できることこそ「正確さ」

217

誠実性の欠如が引き起こした問題

220

ときにはとりあえず目の前のものからこなししていくことも大事

222

第11講

リスクの防止と企業の継続が、会計の役割

不公正な会計によって会社がつぶれる時代

228

取ってよいリスク、取ってはいけないリスク

233

企業経営は「大航海」と同じ

235

第12講

「経理・財務&CFO」が、事業部をバックアップする

「CFO」とは何か 240

「経理・財務」人はどんな仕事をしているのか 244

不正が起こりそう！そんなときはどうする？ 246

販売体験が仕事に生きてくる 249

私がついているから、憎まれ役になれ！ 253

経理・財務の体験で一番つらかったこと 256

失敗を生かす、それが大事 259

索引

第
1
講

**なぜ会計を
勉強しなければならないのか？**



みんな決算書を読みたがるけれど……

先生こんにちは。社会人は会計のことを知らなければいけないといわれますが、何から勉強すればいいかわからなくて。

確かに、そういわれますね。

決算書を読めなければいけないといわれるのはどうしてですか？

若い人はもちろんですが、多少お年を召した人も含めて、このままずっと今の会社で定年までいられるかどうかという不安感があるのでしょうか。若い人は若い人なりに、四十

代、五十代の人もそれなりに先のことに對する不安感を持っています。

今、日本の経済はあまりよい状態にあるとはいえませんが、人々は不満を抱えています。株式市場もおかしくなっています。それから、国の経済政策もあてになりません。

そうすると、少なくとも自分の身近なところで、自分の勤めている会社は世の中において會計的に見てどんな状態にあるか、どのような地位にあるのかというのをちよつと知ってみたいと思うのでしょうか。本当にうちの会

社は大丈夫なのかを、客観的に見ることでできますからね。さらに、自分が勤めている会社はもちろん、身の周りのいろんな会社について知りたいのでしょうか。

——自分の会社の決算書は手に入るし、
他社の決算書も新聞に載っています。

だから、それをやさしく解説する本がないかなあと考えるんだと思いますよ。それは、日本中、いっぱい会社はありますからね。だいたい、そうですね、二五〇万社ぐらいありますね。上場企業から、例えばお豆腐屋さんをお父さんとお母さんとでやっていて、お父さんが社長でお母さんが専務という会社まで入れて。

新聞に載っているのは大企業のことばかりですが、二人、三人でやっているような小さな会社もれっきとした会社なんです。それを区別してはいけません。そして、そういうどここの会社にも決算書はあるんです。どんな小・中・大会社にも。

——会社の業績ってというのは、
決算書からすべてわかりますか？

必ずしもそうとはいえません。新聞なんかでも「決算書の外を見る」「見えない資産」などとよく出ていますよね。それは第7講で説明するとして、それでも私はやっぱり八五%から九〇%は「決算書の内」にあると思います。ですから、決算書はとても大切です。